

共生社会被災者支援の会 臨時事務局会議
議事録

日 時 2011年9月16日(金) 午後18時30分から

場 所 文化交流センター 談話室(北新地駅真上、大阪駅前第二ビル6階)

参加者 柏木宏(教員)、阪野修、坂口一美、尾崎力、藤井伸二、前川武志、空千秋、岩山春夫、後藤陽子

【議題】

1. 8月の活動状況報告
 - (1) 気仙沼高校生の来阪について
 - (2) 高校生現地支援ボランティア派遣について
2. 9月の教育ツアーの募集状況と今後の実施計画について
3. 気仙沼支援ネットワークの構築についての提案
4. リエゾンの人材選出について
5. ネットワーク・オレンジのTシャツ販売に関する請求書処理について
6. その他

【議事詳細】

1. 8月の活動状況報告

(1) 8/3～8/5の気仙沼高校生の来阪について(藤井氏より)

「がんばれ! つばさネットワーク」のホームページにも活動状況を掲載しているが、詳細については以下の通りである。

【参加人数】

気仙沼高校 生徒11名、教員2名

ホストファミリー 13件(広告用のピラ町内会に3000枚配布)

つばさ高校(ボランティア)

送り迎えの生徒 約150名、報告集会での報告者 13名など、総勢約170名

報告集会参加者(一般市民含む) 約140名

【実施内容】

8/3 箕面スパーガーデン、新世界、大阪府立つばさ高校での交流、

8/4 関西の私立大との交流、大阪城観光、茨城市にて報告集会

8/5 法隆寺(奈良)観光、食事会、義捐金贈呈

【活動成果として感じたこと】

現地から来た高校生の中で、震災後初めて「生きててよかったと感じた」と感想を言う生徒が何人かいた。現地では泣き言を言いにくい状況下であり、大阪に来て話を聴

いてくれ親身になって一緒に泣いてくれる家族と接することで、「いろんなカウンセリングを受けたが何倍もよかった」と感想を書いている生徒もいた。

【会計について】

つばさネットワークの会計の状況を見ると、募金なども含めて残額1,022円しかない。ただし、今回の活動で立替払いしている分などについては、支援の会から40万円の補助が入る予定である。なお、募金は5月の分と含めて55万円寄付したが、個人を含めた行動カンパについては122万にもなった。

【マスコミ報道について】

読売新聞2回、毎日新聞1回、NHK奈良
気仙沼高校にも読売から新聞が届き、いろんなところに配布したようである。

(2)8/16～8/19の高校生現地支援ボランティア派遣について（坂口氏より）

【派遣人数】

大阪より 高校生14名 引率4名の他、大学関係等一般ボランティア8名 計26名
埼玉より 高校生3名 引率1名

【現地協力者】

気仙沼高校より 生徒11名 引率3名
宮城県立西高校より 生徒10名 引率1名
鹿折小学校より 校長および教諭5名
その他 気仙沼西高校PTA会長1名、プロジェクト気仙沼サポート2名 計3名
鹿折小学校校舎壁面清掃の現地サポーター他

【活動内容】

8/16 大阪出発
8/17 気仙沼 八瀬森の学校着 唐桑半島へ
被災地の状況説明とボランティア活動ガイダンス
(気仙沼復興協会事務局 千葉貴弘氏より)
「思い出は流れない写真救済プロジェクト」の手伝い(唐桑体育館)
八瀬森の学校地区住民宅にて民泊
8/18 ボランティアセンター 気仙沼市立鹿折小学校他
ボランティアセンターの役割や仕事内容の説明
(大阪ボランティア協会 岡本こずえ氏より)
鹿折小学校校舎壁面清掃実施
現地高校生との交流会、市内視察、民泊先での入浴・夕食
気仙沼出発
8/19 帰阪

【会計について】

今回の活動の費用については、旅費 306,183 円ならびに滞在費 219,900 円、諸経費 131,700 円となった。諸経費についてはほぼ参加費（一人当たり高校生 3,000 円、成人 15,000 円、未成年学生 10,000 円）で賄っており、旅費と滞在費については補助金を利用した。

2. 9月の復興支援ツアーの募集状況と今後の実施計画について（阪野氏）

【概要】

実施日：9/22（木）～9/26（月）

行き先：気仙沼市内、気仙沼大島、平泉

目的：震災による被災状況と今後について現地で復興支援に携わっている方々からの話を聞きながら、現地の観光産業活性化につながるような資源の開拓ならびに経済的支援を目標とする。

内容：市内視察、大島の観光復興に関する現地セミナー、十八鳴浜散策、ボランティア活動、「しおから作り」体験、蔵元「ふしみ男山」訪問、お魚市場での買い物、平泉観光

【参加状況】

40名の定員だが、現在のところスタッフを含め30名しか集まっていない。

【今後の計画について】

今後11月に2度目のツアーを実施する予定だが、今回の参加状況をみるかぎりでは定員に満たない可能性が高い。特に今回の募集に関して、日程が合わない人や長時間のバスに耐えられないなどの意見が出ており、日程や交通手段について検討を要する。募集方法についても、他の支援団体との連携も視野に入れて募集範囲を拡大することも必要と感じる。

これに関して航空会社が提供するビジネスパックや新幹線を利用するという意見が出たが、現地での集合方法などの問題もあるため更なる検討が必要となった。

11月の実施を中止することも意見としてあったが、中止した際の代替事業や手続きの煩雑さを考慮し、当面、当初予定通り実施する方向で進めることになった。

その際、気仙沼・大島からのゲストを招き、広報を行う他、3のネットワーク構築に関連させながら、募集を進めていくことになった。11月のツアーの内容は、ほぼ9月と同様とし、実施した場合の日程の調整に坂口氏、現地での責任者に前川氏、参加者募集などの広報に尾崎氏が担うこととなった。

3. 気仙沼支援ネットワークの構築についての提案（尾崎氏）

【提案事項】

大阪ボランティア協会をはじめ各地のNPOなどが気仙沼でネットワーク化を進めているが、当会もそのネットワークに参加したり、大阪で気仙沼支援に関わる団体のネ

ネットワーク作りを進めてはどうか。

気仙沼におけるネットワーク化が進んでいるのは社協を中心とした活動を行なっているボランティア団体であり形式だけにとどまっている部分も否めない。また、リエゾンが未定の段階では、参加しにくい。

一方、大阪を始めとした関西には、当会の他にも尼崎市など、気仙沼での支援実績を積んでいる団体は存在しており、それらの団体との情報交換や協力関係の構築を進めていくことになり、尾崎氏が担当となった。また、このネットワーク化を通じて、2の11月のツアーの募集や来年3月のシンポジウムなども開催の準備につなげていきたいと考えている。

4. リエゾンの人材選出について

気仙沼の復興協会よりリエゾンの役割を担う人材について紹介いただいたが、諸事情により不可能となったため、別の方を紹介していただく予定である。

但し、リエゾンが担う業務については現地より難しいとの声もあり、業務内容と賃金体系について検討が必要である。

5. ネットワーク・オレンジのTシャツ販売に関する請求書処理について

ネットワーク・オレンジからのTシャツとお菓子の販売に関する支払いについては、これまで販売した分については早急に送金し、売れ残りについては売れた後、支払う案を提示することになった。

6. その他

ニュースレターの原稿を坂口、藤井、阪野が執筆することになった。

大阪市の職員を役員に加えるという提案については、当面必要ないという結論に至った。来年度の申請については、結論を先送りにした。

以上、文責 後藤